

第 5 回関西生殖医学集談会

第 49 回関西アンドロロジーカンファレンス

2

大阪, 2017. 03. 04

胚盤胞までの発育スピードと栄養外胚葉のグレードは着床後の予後に影響するか

濱 聡子¹⁾、佐藤 学¹⁾、橋本 周¹⁾、中岡 義晴¹⁾、森本 義晴²⁾

医療法人 三慧会¹⁾ IVF なんばクリニック、²⁾HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

受精後、胚盤胞までの発育に要した時間 (Day5、Day6) と栄養外胚葉 (trophectoderm: TE) のグレード (A, B, C) が凍結融解後の回復能、移植後の着床率に影響を及ぼすことを報告している (受着誌 2013 年)。

今回はさらに着床後の予後にどう関係するかを調べた。

【方法】

2013 年 1 月から 2014 年 12 月の間に 39 歳以下で融解単一胚盤胞移植を行った 977 周期を対象に胚盤胞までの発育に要した時間と栄養外胚葉のグレードを 3 つの群 (Day5 で TE グレード A or B ; 5A-B、Day5 で TE グレード C ; 5C、Day6 で TE グレード A or B ; 6A-B) に分け着床率・流産率・流産児の染色体異常率・生産率・出生児の体重・在胎日数・男児率・出生児の奇形率を後方視的に比較検討した。3 群の平均年齢は 34.6 歳から 35.0 歳で差はなかった。

【結果】

5A-B は他群に比べ着床率は有意に高く、流産率は有意に低かった。また、5A-B は他群に比べ生産率が高い傾向だったが、一方で流産児の染色体異常率 (67.7 から 80.0%)、出生児の体重 (3038.9 から 3166.4g)、在胎日数 (272.6 から 276.8 日)、男児率 (51.2 から 53.1%) および出生児の奇形率 (0.00 から 0.02%) は 3 群間で差はなかった。

【考察】

胚盤胞までの発育スピードと TE グレードの低下は流産率を上昇させ、妊娠継続の重要な因子である一方で、発育スピードと TE グレードが不良な場合でも妊娠を継続できれば周産期での異常はなかったことから、移植できる胚と判断してよいと考えられる。